

⑦株式会社漁師中村 ＊経営学部3年 竹中 勝哉さんによるレポート

埼玉県出身で、現在、鳥取県大山町で素潜り漁師として働く中村さんに、漁師の仕事内容や大山町のUIJターン者を中心とする組織「築き会」の設立経緯、大山町への移住定住の促進等の活動についてお話を伺ってきました。

中村さんは18年前の26歳の時に埼玉県から鳥取県大山町へ移住してきました。中村さんは幼い頃から潜水をすることが得意で、好きなことを仕事にしたいと考えており、素潜り漁師の募集をしている地域を探し、唯一募集をしていた鳥取県大山町へ素潜り漁師になるために移住してきました。素潜り漁師として、完璧に一人前になるまでは12年ほどかかり、生活ができるレベルまで達するには3年かかったそうです。移住してから何年かは鳥取県から補助金が出ていたこともあり、素潜り漁師としての収入が少ない時期も生活していくことができたようです。漁師の仕事は過酷を極め、何度も辞めたいと思ったことがあったようですが、本当にやめようと決意した日に大量のサザエがとれたことから、海に辞めてはならないと言われたような気がして続けることを決意した、と中村さんは言っていました。漁師として今は成功しているが落ちる怖さがあるとのこと。体を壊したら、漁には出られないし、海では命の危険もあります。体力的なことでも、年齢と共に体力は落ちていく不安もあるようです。漁師の休みは120日から150日ほどで3日に1回漁に行く頻度で、他の時間を利用して「築き会」のメンバーとして活動しています。

「築き会」は、中村さんら3人で創立された大山町のUIJターン者を中心に活動する若手起業家による任意団体であり、古民家の再生・保存、移住定住の促進、地域資源の活用と地域活性化を図ることを目指し、様々な活動を展開しています。その築き会を中心に、行政の協力を得てオープンしたのが「まぶや」です。まぶやは元々、馬淵さんという方が住んでいましたが、1994年から約20年間、空き家となっていました。そこで、社会問題となっている空き家を活用し、空き家対策の先駆けとして、まぶやが作られました。まぶやは一人一人がやりたいことを形にする拠点となっており、1日店長として誰でも場所を借りることができる「まぶカフェ」や、イベント展示スペース、大山町移住交流サテライトセンターがあります。移住交流サテライトセンターに訪れる相談者は基本的に、1度だけの相談ではなく、何度も相談を重ねることや、移住をした後のアフターフォローがあるため、定住率は高いようです。

私が1番印象に残った言葉は「都会でないで多く稼げないなんてことはない。ローカルでも、たくさん稼いで良い暮らしをすることができる。それには、自分が何に頑張っているかを理解すること、情報を常に気にすることが大切。」という言葉です。今回の訪問で漁師の仕事内容、移住定住の取り組みを学べたことはもちろんのこと、自分の将来について考え、自分自身を見つめ直す良いきっかけとなりました。



「築き会」が運営するコミュニティスペース「まぶや」の前で